○９番（福永　啓君）　一般質問を行います。

熊本地震からの復旧期最後の年度であり、本格的復興の序奏が始まった、まさに復興元年である今、御船町では藤木町政のもとで新たな総合計画策定も進んでいます。こういう町にしたい、いや、こんな町がいい、町民の方々からさまざまな声が聞こえてきます。町民の方々はさまざまな復興した町の姿をイメージしているのではないでしょうか。

まちづくりの主役は町民ですので、町民の方々の思いが反映されたまちづくりを進めなければなりません。一方で、多様な町民の方々の思いをすべてそのままかなえるようなまちづくりを町が計画し、推し進めることは極めて困難であり、現実的ではありません。町民の方々のさまざまな思いをよりよい形で復興のまちづくりに反映させるためには、どのようにすればいいか、どのような町の姿がいいのかと考え、進めるべきではないでしょうか。

町民の方々の思いが反映された復興のまちづくりを進めていく上でも、藤木町政の復興

のまちづくりに対するイメージを、そして課題を。幹線道路部分、町平坦部中心部分、中山間地部分、それぞれわかりやすく御説明いただきたいと思います。

個別の質問に関しましては、質問席より行います。

○町長（藤木正幸君）　福永啓議員の創造的復興を成し遂げた御船町の姿をどのようにイメージしているかについて、お答えを申し上げます。

高速道路のインターチェンジ及び幹線道路部分につきましてのまちづくりの考え方ですが、インターチェンジは人、物の出入口とみなすことができます。御船、小池高山の２つのインターチェンジは､町中心部から比較的近い距離にありますが､中心部が拡大した、その結果、市街地とインターチェンジが一体化することは難しいので、インターチェンジの利点を活かすためには、インターチェンジと町中心部を人の動きでつなぐことが課題であると認識をしております。

現在、御船インターチェンジ東側に大型商業施設コストコの誘致が進行しており、町にとって大きな人の動きが生まれるところを期待していますが、コストコの進出効果を波及させるための鍵は、コストコの買い物客をどのようにして町中心部まで誘導するかということです。買い物客に対し、少し足を伸ばせば、さまざまな魅力を備えた町があるという情報を伝えることが重要になってくると考えています。それには、先般、若手職員に対応策を検討するよう指示をしたところであります｡現在まとめを行っているところですので、幾つか興味深い提案も出ております。整理して報告を行わせていただきたいと思います。

町平坦中心部について、人が回遊するようなまちづくりが必要です。中心部をコストコや恐竜博物館の来館者の第二の目的地に変え、町内を人が歩いて散策できるようにすることです｡町には複数の機能を整えた施設は少なく､大部分の施設は聞く､学ぶ､体験する､食べる、商品を購入するなど単独機能しか整えておらず、別のニーズを要望する顧客の要望に応えるためには、移動してもらう必要が出てまいります。

また、左岸側の商店街は空き地が目立ち、店舗自体もまばらな状況であります。中心部は現在このような状況にあり、恐竜博物館には毎年多数の来館者がありますが、この効果を活かしきれていないのが現状と言えます。このため、中心部の賑わいの創出には、１、来訪者の滞在時間の延長、２、商店街の活性化が課題となってまいります。１の来訪者の滞在時間の延長には、既存施設が緊密に連携することが課題となってくると思います。対策については、先ほどインターチェンジに関する質問で申し上げました若手職員が検討し

たものの中にも含まれていますので、整理ができ次第報告を申し上げたいと思います。

中山間地には、小川、棚田などの美しい日本の風景が残っております。一方、人口流出と高齢化が進行した結果、耕作放棄された農地や放置山林が拡大する傾向があります。地域では、区長や役員のなり手が少なくなり、住民が幾つもの役職を兼ねている状況も見受けられております。また、住民が連帯感を確認する場として神社や祠の祭りなど、さまざまな行事が行われていますが、少子高齢化の進行でその機会が次第に少なくなり、集落から活気がなくなる原因の１つとなっているところもあります。高齢化が進んだ集落をこのまま放置すると、道路や集会所の管理、地域の文化の伝承などの機能が低下しているところでは、集落の崩壊、消滅につながることが懸念される状況にあり、人と人、地域のつながりの構築に向けた地域コミュニティの維持再生が喫緊の課題となっています。

また、子どもたちから高齢者まで、地域で夢を持って住み続けることができるよう、地域おこし協力隊員の導入、行政区・嘱託区再編の２つの事業を展開して、地域を担う人材の育成支援、コミュニティ維持再生を図ることとしています。

その他、詳細については、担当課長より説明を申し上げます。

○９番（福永　啓君）　まず、コストコを中心としたインターチェンジから、御船町中心部、幹線道路沿いのことについてお伺いいたします。よく、テレビとかその他雑誌とかで、日本という国は、熊本県に限らず、インターを下りればどこでも同じような風景が広がっている。バーンという道があって、チェーン店の大きい店がバンバンバンと並んで、私から言えば乱雑な開発だと思うのですが、一方それを町の発展した姿として、それをよしとしている地域も多々ございます。御船町については、インターからこちらです。一部幹線道路がございます。そこについては、そのような開発でいくのか、それとも何かお考えがあるのか、お聞かせください。

○建設課長（野口壮一君）　今の御船インター周辺のコストコ用地から町の中心まで約2.5キロほどあります。現在、農振地域の規制もあります。現実問題として、御指摘のような風景にはならないかなと思っております。

コストコが予定地から町の中心部まで445号線のバイパス幹線道路沿いに、開発余地のある土地が見受けられます。将来的には立地開発の検討を進めなければならないと考えてはいますが、周辺の自然、それから田園環境、それから大切なことですけど景観に配慮し、御指摘の類似した乱開発とならないように、御船町の個性が生きるような誘導を考えるべ

きだと思います。

○９番（福永　啓君）　さっきの町長の答弁でもありましたけど、ここは御船町中心へのプロムナードなのです。さあ、これからどんな町があるのだろう。やはりそういうときに、日本全国、どこにでもあるような、バンバンバンとしたあの開発というのは、決してわくわく度も生み出さなければ、期待も上げてこない景観、これは非常に重要な要素になってくると思います。ぜひそこに注意をして、開発の誘導をお願いいたしたいと思いますが。

一方、いろいろ意見が聞かれます。コストコ予定地から同じところです、中心部なのですが、今回都市計画かかりましたよね。しかし、コストコの予定地のみに用途を張り付けて、ほかの中心部の間のところは全く予定地は張り付けてないと。これでは、飛び地みたいになってしまうのじゃないの。県が推進していますが、コンパクトシティ、それにも違反するんじゃないの。そして流れもこっちに来ずに向こうに行っちゃうんじゃないかと。だから、あそこを含めて、一体的に都市開発をして用途地域も今のうちにきちっと張り付けて、そして企業進出を促すべきだという御意見もあります。今の御意見については、どうお考えでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　今、議員が御指摘になりました、そのような意見があるというのは十分承知をしているところであります。御指摘の地域は主に農振地域かつ第１種農地であります。現実問題として、具体的な進出計画がなければ、農振除外それから開発行為は難しいものであります。それ以外にも開発による浸水・排水対策、それから農地保全対策など必要な対策を考慮しなければならないというものです。

現在、御船都市計画のマスタープランの見直し作業を実施しています。国道445号線沿いの活用に向けて、沿線施設立地検討ゾーンとしてエリアに向けた検討を現在行っております。同じく高木地区の小池高山インターから443号線沿いについても同じゾーニングの予定をしているところです。このような手続を行い、町中心部への人の流れを構築するような土地利用の誘導を模索していきたいということで考えております。

○９番（福永　啓君）　用途地域を張り付けるのではなくて、それぞれゾーニングをしながら、そして現在の農振を残しながら、有効な、町として優位な開発をそこの地域に誘導していきたいという考え方かなと思います。

実は、御船町で都市計画と一緒に農振地域だったところを、もう用途地域を外してしまって、そして、一定程度業者が自由に開発できるようにした地域がございました、過去に。

皆様にお配りしていた写真を御覧ください。この写真です。これが御船町中心部なのです。これは昭和22年、戦後すぐです。この時からもう既に御覧になっておわかりになるとおり、左岸地区は相当な店なり家屋なりが集中しておりました。これが戦後の高度経済成長を経てどうなったか。そこに２番と書いてありますが、これがそれからちょうど20年後です。高度経済成長を経て、やはり周辺には家屋が若干広がっていますね。しかし、真ん中の農地、これ御船中学校が新たにできていますが、そのあたりはほとんど変化がございません。それから20年後です。最初の写真から40年経ちました。大分やはり御船川西岸及び城山の西岸、御船川の東岸です。このあたりも大分開発が進んでまいりました。しかし、御船中学校周辺、御船高校周辺はまだ農地が広く残っておりました。

そして、この後なんですね。これがおよそ20年度、ここで初めてここの中心部の御船中学校周辺、御船高校周辺に残っていた農地に、幾つかの小さな住宅開発等が侵食してまいりました。この理由は、先ほど申し上げました、この間に農振が除外され都市計画が策定され、そして用地指定が張り付けられたからです。次はこれから10年後です。もう、この勢いはすごいですね。たかだか10年です。それで、最初の40年、それに匹敵するような数の増え方になっております。

本来、農振除外後はこのようになる町の姿を事前に対策を立てる必要があったと、私は考えております。そして、それを立てないままに、無計画といいますか、民間に任せた開発をすると、このようになり、景観も乱雑になってしまったのではないかなと思います。そして、一番最近問題になっているのが内水被害の対策です。内水の抜本対策である矢形川の掘削、これも下流からやっていかなければなりません。今後、５年、10年以内に完成するかと、そういうことは到底考えにくい。

コストコは、さっきおっしゃいましたとおり、一体的な開発は必要です。また小池高山から町中心部へも同じことです。だからといって、町中心部を、農振を外し、民間が自由な開発ができるようにしてしまえば、私はこのような形の同じ失敗を繰り返すのではないかというふうに思っております。しかし一方で、やはり一体的な開発は行わなければならないと。

ちょっと繰り返しになるかもしれませんが、どのような形で、この一体的開発、それを行っていこうとするのか。さっきよりも詳しい質問でお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　まず、御船インターのコストコの予定地から、町中心部につながる農振地域の中で、将来にわたって農地として守る地区、将来的に開発を促進し、町内の中心部へつながる地区を分ける必要があります。今現在で、どこが農地として守る地区、どこが開発を促進する地区かというのは、まだ現在のところ具体的な検討は行ってはおられません。現状を見る限りとしては、町道中央線及び国道445号線に係る南側を候補地として開発を進めていかなければならないのかなと感じているところです。

開発を進めるに当たり、内水被害の抑制に向けた対応として、例えば個別開発計画の中で、コストコ同様、雨水調整池整備などを行う優良な開発に対して町が助言や協力をするというような形をとり、こういうことをすることにより、失われる保水力対策、また排水対策も可能になるかと思います。

○９番（福永　啓君）　これは、皆様にお配りした後の方の写真になるのですが、この赤線で示した地域、大体このあたりだと思います。農地の中に一定程度住宅等の開発が進んでいるこの地域、最終的には、この地域のあたりは一体的開発、つなぐ開発としてつなげていかなければならなくなるのではないかなと。おそらく皆さんが思っていらっしゃる地域がここではないかなと思うのですが。

以前、コストコに関しまして、保水力の心配等々も都市計画の中で出てまいりました。この地域に関しましては、そのように調整池を持つ開発を政策的に誘導していくということも可能だと思うのですね。実は、コストコにつきましては、コストコが進出したことのみで保水力が失われ内水被害が起こるということは、これは数字上起きないのです。なぜかといいましたら、建設法上、コストコで失われた保水力部分は必ず調整池を造らなければいけないとなっておりますから、その進出のみでは、これはなかなか洪水とか内水被害は起こり得ない。一番問題なのはその周辺なのです。その周辺に、そのような調整池を伴わない開発及び道路の拡張、その他排水不良、そのようなことにより、やはり全般的な保水力低下、これは免れ得ないと思うのです。優良な開発を誘導するといいましても、すべてが調整池を伴った開発のみを誘導することは難しいと思います。周辺に、そのように調整池を伴わない小規模な開発、道路、その他等の問題、これにおきましてやはり地域全体としては、保水力低下はせざるを得ないと思いますが、いかがでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　今、議員の御指摘どおり、近年の多量の時間雨量を伴う豪雨の影響等もあり、町中の地域全体を考えれば、保水能力は低下していくと思います。

このような中、令和元年８月16日付けでふれあい広場周辺内水氾濫対策に関する陳情書が、六丁目の区長ほか21名の署名を添えて提出がありました。氾濫対策として、長期的対策と短期的な対策に向けた検討に向け、今現在やっているところです。

早速、短期的な対策として、宅地開発が進んでいる役場周辺の水路に堆積している土砂しゅんせつに係る予算を、今回補正予算として計上をさせていただいております。

○９番（福永　啓君）　そうですね、今回の補正予算、見ました。そのような予算が計上されておりました。指摘される前に計上されていただいたのですね。大変感謝しております。それと同時に、じゃあ抜本対策、これは何があるか。矢形川改修ですけど、もう何回も議会等で議論になっています。これはとにかくしつこく、しつこく、お願いする。下からやっていかざるを得ないわけですから、スピードを上げていただくよう、予算を付けていただくよう、しつこくお願いする、それしかないと思います。それについては、議員は全員一致しています。ですので、議会としてできることがあれば、協力いたします。

いかがでしょうか。藤木町長。

○町長（藤木正幸君）　お答えいたします。

これまでも熊本市、御船町、嘉島町、益城町、一体となって県にお伺いしたり、国にお伺いしたりして、このお願いをしてまいっております。震災を受けて、まだまだこれからこの矢形川の改修というのは重要視されてくると思います。粘り強く頑張ってまいりたいと思います。

また、議会におきましても、この加勢川問題、矢形川問題、こちらのほうも御協力いただきますようお願いをしておきたいと思います。

○９番（福永　啓君）　そういう、私たちも重々承知しています。町長も、もう本当に重々承知されていると思います。そのほかに、矢形川の堤防嵩上げという案も出ているかなと思います。堤防嵩上げ、それについては、どのように思われますか。

○建設課長（野口壮一君）　矢形川の管理については熊本県の管理下にあります。堤防の嵩上げを計画すれば、町道下高野甘木線をまたぐ橋の付替費用の問題及び下流側の嘉島町の堤防高との調整も生じてきます。堤防が高いほど高くすれば、それを上回る洪水が発生した場合、より高い水位で越水することになります。このことにより浸水の広がりや深さが大きくなる可能性があり、水害のリスクも大きくなると思います。万が一堤防の決壊リスクも検討しなければならないものだと思います。１つの案だとは思いますが、慎重な検討が

必要であります。

○９番（福永　啓君）　しゅんせつもやっぱりすぐには難しいですね。嵩上げも、「ああ、そうですか」と言って、すぐにやることもこれは非常に難しい。危険性も伴う。では、当面の対応策として何があるのかということになってまいります。調整池なのですが、ふれあい公園の地下、恐竜公園です、皆様がおっしゃっている。ここに調整地があると思いますが、あるのですか。

○建設課長（野口壮一君）　ふれあい公園の一角に、貯水容量約600トンの地下貯留施設があります。

○９番（福永　啓君）　600トンといえば、小学校とかの25メートルプールよりもやや大きいぐらいです。そういうものがあの地下に埋まっているということですよね。これはちゃんと動いているのですか。

○建設課長（野口壮一君）　公園の整備をするときに、この調整地の放流先、それから中のほうのマンホールもありますので、定期的に確認をしております。

○９番（福永　啓君）　その600トンの量なのですが、これはあくまでもふれあい公園の建設に伴い失われた保水力に相当するものと考えてよろしいですか。

○建設課長（野口壮一君）　今言われましたように、あくまでもふれあい公園の敷地面積に対する貯水容量ということになっております。

○９番（福永　啓君）　仮に、ふれあい公園の建設時にこのような周辺の開発、貯水池がない、調整池がない開発を考えて、ふれあい公園で義務づけられている貯水量よりもはるかに大きい貯水量を造っていたとしたら、これはたらればですけど、今起こっている町中心部の内水被害、これは一定程度軽減されていたのではないかなと考えるのですが、いかがでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　効果の程度は予測はなかなか難しいところなのですが、大きくなった分の水量は調整できるということになります。その分、周辺への被害は軽減されるということになったと想定されます。

○９番（福永　啓君）　そうですね。仮に倍ぐらいのものを造っていたとしたら、その分は少なくとも、一定時間そこにたまるわけですから、一定程度軽減はされるのではないかなと思います。また、そうしますと、今コストコを含め、今後国道沿いに誘致されるであろう調整池を伴った企業、ここに対して、法律に伴った貯水量ではなくて、1.5倍とか２倍とか

を造ってください。町が何らかの補助はしますけど、そのようなお願いをすることって、これはできないのですかね。

○建設課長（野口壮一君）　この宅地開発や進出する事業者へ強制をするということはできません。例えば、敷地の制限もありますけれども、設置基準を超える雨水調整池整備へ、言われるように、町から何らかの支援とか補助とかをすることができれば、不可能な話ではないかと思います。

○９番（福永　啓君）　何か、町が新たに造るよりも、既存の造る施設に、少しでも大きくしてもらおうと。その代わりそれに係る分は全部御船町が見てあげますよと、そちらのほうが私は安価に保水機能を保つことができるかもしれないと考えます。ぜひ、それについては検討していただきたいと、積極的にですね、お願いいたします。

また、町長は防災機能を兼ね備えた総合グラウンドを造る考えを持っているとお聞きしております。総合グラウンド建設時に、同じようなことですよね。法律上にこれだけ造らなければいけないと。それ以上のものを、もう御船町ですからボンと造ってしまう。また、それを造る場所、それもそのような内水被害に対応できるような場所、貯水・遊水池として適した場所、そのようなものを検討し、このような内水被害に効率的に対応できるようなお考えはございませんでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　まだ具体的なものではありませんけど、震災復興計画に掲げられている防災機能を有する総合グラウンド建設計画があります。この計画時に雨水調整池が整備場所としての機能を有する計画整備を、検討を行っていきたいと考えます。

○９番（福永　啓君）　また、町内には排水路はいっぱいあるのです。例えばそれが200メートル、1.5メートルぐらいの深さがあったとしましょう。200メートル、その間を1.5メートルずつぐらい、ちょっとただわきに掘っていった。そしたらそれだけでも大体400～500トンですか、25メートルプール１杯分、それがそこで調整池としての機能を兼ね備えることができるという、数の計算としてはそうなります。そのような形、既存の水路、それを調整池としての機能を持たせるように、一定程度拡幅するとか、そのようなことは、これは考えていらっしゃいませんでしょうか。

○建設課長（野口壮一君）　今回の補正予算に、役場周辺の雨水基礎調査費用を計上させていただいております。提案のありました素掘り排水路の拡幅について、用地の問題等もありますが、本調査の中で検討をさせていただきたいと思います。

○９番（福永　啓君）　内水被害対策は、とても今、開発を進めるに伴って同じようにやっていかなければいけない対策です。しかし、抜本対策というとなかなか進みません。しかしそれはしなければいけない。その間に、では町民の方々に、洪水を我慢しなさいと、財産に損害を受けても我慢しなさいと言うわけには決していきませんので、できる対策もあると思います。

今、今回の予算も出ておりました。そして今提案したような対策です、このような対策を通して、できることからコツコツと、少しずつやっていきながら、被害の軽減を目指していただきたいなと思います。

次に、町の中心部の復興のまちづくりについて質問いたします。これは、今の、さっきの写真、手前に戻します。１つ前を見てください。これがチェーン店やディスカウントストア等々、町の中心部に並んでいます。御船町は大変便利になってきています。しかし、じゃあ町としての個性的な魅力、それはどうなんでしょうか。コストコです、及び恐竜博物館の来館者を御船町の来訪者に変え回遊していただくためには、先ほども若干説明いただきましたが、課長、どのようなまちづくりが必要と考えるか、思いを聞かせてください。

○商工観光課長（作田豊明君）　現在、恐竜博物館を中心に、今大体、去年が14万人ということで、年々増えつつあります。隣接する観光交流センターでも、観光案内人の町内の観光所の案内、併せて特産品「いさぎ」の販売をやり、３年前から化石発掘体験の体験者も年々今増えている状況です。そして、それに併せて周遊券のチケット販売もやりまして、飲食店や温泉センターへの集客も今見込めている状況です。

この中で、観光協会とライオンズの皆様方のおかげで観光案内看板を多数取り付けていただきまして、そしてガイドクラブ、町内の史跡巡り等を企画して、御船町の魅力を今発信しているところであります。今後コストコの集客も200万人とか300万人と言われております。本当に見込めますので、御船町の魅力をしっかり発信しまして、近隣市町村とも、また観光協会、商工会とも併せまして、さらなる連携を深めまして、来たくなる、歩きたくなるまちづくりに努めてまいりたいと思います。

そのためには、刺激的好奇心や胃袋を満たすということで、これを仕掛けていかなければいけないと今思っております。さらに住民意識が、御船町は観光地だという位置づけとして考えていただき、商工業者のさらなる意識改革していただければと思っております。

○９番（福永　啓君）　来館者及び町内来訪者に対する、観光に関する意識アンケート、行っ

たことがあるかとかいう調査でも構いません、そのようなアンケート調査を行ったことはありますか。

○商工観光課長（作田豊明君）　復興計画、並びに総合計画での意識調査を今行っておりますが、一般客や観光客に対するアンケート調査は今は行っていない状況にあります。また、商工会で、本年度小規模事業者地域力活用新事業全国大会事業支援事業が今年計画されています。その中で、マネジメント調査が行われ、観光客のニーズが分析されることになっておりますので、それに期待したいと思っております。

○９番（福永　啓君）　やっぱり、課題を検討する際、的確な資料、客観的な資料がこれは必要です。皆様にお配りした、この資料を御覧ください。これは大きくはしておりません、見えにくいので。これは御船小学生237人に聞きました。３年生から６年生までです。「あなたは御船町の観光地を知っていますか。行ったことがありますか」という質問です。単純な質問です。恐竜博物館を知っていますか。知っている小学生、96％です。これは100％にならなかったのが驚きなのですが、それでもやはり96％です。行ったことがある人95％。城山公園、御船小学校ですからね。知っている、97％。行ったことがある、95％。街なかギャラリー、ちょっと落ちますけど、それでも知っている87％、行ったことがある84％。この下がやはり驚きなのですね。八勢目鑑橋、これは知っている人は６割です、60％。行ったことがある人が37％。その下の結果がもっと驚きでした。吉無田高原、これは私たちの世代では知っているのは100％でした。少なくとも、90何％になると思っていたのですが、これを知っている人、66％です。行ったことがある人41％です。吉無田水源、これもですね、私たちは100％知っています。しかし、今の御船小学校の３、４、５、６年生、知っている人でも55％、行ったことがある人は31％です。このように、今私たちが、立案する人たちが考える肌感覚と実際の中には、大きく乖離が生まれるような結果も、これで生まれてまいります。だったら何をしなければいけないのか、ということもわかってまいりますので、これは調査は必要不可欠ではないかなと思うんです。今後、調査をされるということでしたので、ここは期待をいたします。

そして、日本国中なのですが、多くの地域でこのように大きな道ができると、そこに商店はやはりバイパスができると張り付くんです。そして、旧来の町並みがゴーストタウンのようになっているところも多いです。そして、それはそれでもよしと、仕方がないねとして、その新しい町並みに対してのみ補助援助している自治体も実際にございます。

御船町については、町の中心部、これをどのようにお考えですか。このように張り付いてきた国道バイパス沿い、これを今後進行していくのか。それとも、町中心部をどのように考えるのか、お聞かせください。

○商工観光課長（作田豊明君）　福永議員がおっしゃるように、事実、国道沿いについては、店舗、住宅の開発が集中しております。しかし、御船川沿いの旧来の町並みが廃れているのも事実です。これから、移住定住する住居地域としては一等地ではないかというところで私たちは思っております。町並みでも高齢化と後継者不足の問題が商店街でも今発生している状況です。移住定住策を町としても政策を講じることが、町民の願いと今は思っております。

御船川沿いの既存の町並み、本町通りなんですけれども、その再建で、御船町の宝の１つでもあります街なかギャラリーを中心に、住民の方々、商工会にも拠点がございます。観光協会、各団体の方々の多彩な協力を今されているところです。今後、町としても御船川左岸地域の本町通りの再賑わいを取り戻すために、賑わいどおりの振興のサポートに継続してまいりたいと思っております。

○９番（福永　啓君）　やはり、最初の町長の答弁でもありましたとおり、人が歩いて通っていないとなかなか町は賑わわないのですよ。例えば豊後高田の町、昭和の町、人が実は歩いていますけど、その町並みというのは、もうまさに御船町の西岸地域です。今の街なかギャラリーとか、あの周辺と本当に酷似しているんですね。行った者勝ち、やった者勝ちですよ。そのほか、小布施町、ここも、倉敷とか川越みたいに歴史的建造物がずらっと並んでいるわけじゃないのです。ポンポンポンと新しい建物の中にあります。しかし、びっくりするぐらい人が歩いて行き交っています。文化的散在の仕方は、これも御船町と似たようなところがあると思うのですよ。

ちょっとまた写真を御覧になってください。こちらの、何か上に乗っているやつ。これはイオンモールなんですよ。実は町の中心部にイオンモールを乗せてみました。大きさってどれぐらいなんだろうと思って。恐竜博物館から川の向こうまでです。そしてついでに、町の中心部の比較をするために、町の中心部にディズニーランドを乗せてみました。これがこれです。ディズニーランドの大きさを乗せてみました。ちょうど町の中心部と同じぐらいの大きさだったのですね、ディズニーランドというのは。

このように、御船町の町の中心部というのは、目的さえあれば、何とか人が歩いてあっ

ち行ったりこっち行ったりできる距離なんです。実際に小布施町も同じような距離感覚があります。このようにやはり人々がわくわくしながら、どういったものがあるのだろう、どんなものがあるのだろうと思いながら行き交う町を目指すべきだと思いますが、商工観光課長、思いをあと１回お聞かせ願えますか。

○商工観光課長（作田豊明君）　先ほど福永議員のアンケート調査の結果を見て、私も残念なところで、行政マンのＰＲ不足と取り組みがなかったということで、今反省して、今後していきたいと思います。ただ、ふれあい公園と恐竜博物館から御船町の左岸の間には、城山公園とかお店と、御船町の左岸には街なかギャラリー等が今並んでおります。それらを、先ほど言われましたように、わくわくするポイントとして、今手掛けていきたいということで、観光協会と一緒になって、今ルート作りあたりもしていっているところです。

そのためには、やはりもう少し住民主体の取り組みが不可欠ということで考えております。町としても、住民主体の取り組みを全力サポートしながら、私たちも計画してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○９番（福永　啓君）　住民がやる部分、町がやる部分、いろいろあると思います。例えば、前回私たちが視察に行きました東川町、ここではそのような魅力的店舗を新しく造るために小規模に限った企業支援策もございました。また、景観等への配慮、これももちろん必要ですので、景観からまちづくりからすべて兼ね備えた条例も制定されておりました。美しい東川の風景を守り育てる条例とか、このような制度、町ができる支援として、補助制度もしくはこのような条例、これ等を総合的な条例、総合的な制度、これも整備開発するためには必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○商工観光課長（作田豊明君）　議員がおっしゃいましたように、北海道の東川町、条例を拝見させていただきました。美しい東川の風景を守り育てる条例ということで、本当に各種項目を、8,300人の人口とは思えない取り組みが今されております。まちづくりの景観条例と、あらゆる取り組みが盛り込まれた条例につきまして、私たちもこの先進地の事例を精査しながら、研究調査して、御船に合った条例と取り組みに活かしてまいればと思っております。そして、企業支援に前向きに取り組みまして、御船町を活かした施策、町民と作り上げていきたいと考えております。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

○９番（福永　啓君）　すみません、だんだん時間がなくなってきて、私もドキドキしているんですけど。

続いて、中山間部のまちづくりについてお伺いします。まず、現状を御覧いただきたいと思います。写真を御覧ください。これは水越です。水越の昭和50年、そんなに前じゃないというイメージなんですけど、私にとって昭和50年というのは。それが平成30年になると、何だか同じ縮尺とは思えないぐらいきゅっと町が縮んじゃいました、農地もですね。実はこれはまだましなほうだと思っています。これは上野、真ん中が上野七滝中央小学校ですね。これが昭和50年です。これも、今現在が、じゃあこれからどのように変わっていったかといえば、御覧のとおりですね。美しい棚田、比較的残ってはいますが激減はしております。家並みも変わってまいりました。そして、これが七滝です。昭和50年です。一面に棚田、農地が広がっていました。それが現在、これは相当な変化ですよね。これがやはり現状なのです。

これを見て、率直な感想をお聞かせいただきたい。

○企画財政課長（坂本幸喜君）　率直な意見なんですけど、先ほどは町の中を見せていただきました。町の中は新しく道路ができまして、宅地開発などが進んで町並みなどが形成されておりましたけど、今回のこの中山間地を見てみますと、全く正反対ということで、急激な耕作放棄地が進みまして、人家も減っており、一目で過疎化が進んでいることがわかると思います。

○９番（福永　啓君）　さっきのまちの写真、これって２枚目ぐらいの写真、昭和48年ぐらいの写真、そのときの人口が一番多かったのです、御船町全対としては。びっくりすることに。その後、中心部でもあんなに家ができてきていたのに、どんどん全体の人口としては増えていない。逆に減ってきている。それはこれなんですね。

このような現状の中、中山間部、これは復興のまちづくり、どのように考えるかということなのです。昭和50年に戻すような努力をするのか、維持していくのか、またどうやっていくのか、どのようにお考えでしょうか。

○農業振興課長（井上辰弥君）　お答えします。

福永議員から提出のありました50年前の水越、こちらは田畑、町、有水地区だと思います。それと上野、こちらは茶屋本を中心とした古閑原、日向、八勢等が写っておりますが、確かに棚田や豊かな農村風景が写されており、非常に美しい風景だと思っております。しかし、その風景も昭和45年から国の施策で始まりました米の生産調整や、それに伴う米価の下落、また農業者の高齢化が年々進み、特に山つきなどの耕作条件の悪い水田の多くは、

樹園地化されてまいってきております。そして、30年の写真にありますように、だんだん山つきのほうから水田がなくなってきているというような状況になっております。

このような状況の中、平成12年から、これは国の施策で始まった事業ですけれども、中山間地域と直接支払制度が施行されまして、本町では農業生産条件が不利な中山間地域において、31の集落が354ヘクタール、約6,000筆の農地保全や水路、農道の整備をはじめ、共同利用の機械の購入などで交付金を活用され、農業生産活動が継続をされております。

また、上野、田代、水越地区におきましては、圃場整備の要望もされており、効率的な営農生産が見込まれます。しかしながら、５年、10年先の中山間地域は、農業者の高齢化と人口の減少が加速化し、現状すら維持できないことが想定されます。

このようなことから、展開としましては、地域の人と農地の状況、また将来の農地利用の在り方、中心経営体の確保状況など、これから地域農業の基礎となる人と農地の問題を解決していくために、集落による話し合いを通じ作成する、人・農地プランの再度見直しを行うため、各集落に出向きまして説明会、座談会を開催し、集落の持つ多面的機能の維持に向けた取り組みを行ってまいります。

人・農地プランには、後継者対策、新規就農者等、新たな担い手対策も取り組まれておりますので、中山間地域のコミュニティの維持活性化につながると考えております。

○９番（福永　啓君）　上益城地域振興局では、上益城のことをちょうどいい田舎と書いてあるんですよ。もうそれはまさに御船町のことだと思います、中山間部。御船町の七滝中央小学校、このあたりなのですが、例えば、鶴屋の真ん前まで行くのに、車で45～46分です。東京だったらどうなんだと。田園調布の駅から５～６分のところから国会議事堂まで行くのにちょうど40何分なんです。同じように、成城からも全く同じですね。東京の時間感覚でいえば、七滝中央小学校ですとか七滝郵便局のあたりもそうなんですよ。もう十分な通勤圏内です。そういう中におきまして、通勤する家族ですね。お子さんを持っていらっしゃる家族、そのような方々を、これは移住定住を促進すると、そういうことも私は十分可能だと思っています。そういう相談もありました。特に子どもを持っている世帯ですね。

それに対して、課題がやはりあるのだと思いますが、課題はどのように考えますか。簡潔にお願いします。

○企画財政課長（坂本幸喜君）　福永議員のおっしゃるとおり、そのようなニーズはあると思います。ただ一番の課題ですね、これはやはり住んでもらう場所がすぐには見つからない

ということになると思います。中山間地域、特に空き屋は多いが、すぐに貸し出せる空き屋がほとんどありません。町では田代東部仮設団地、これを町の町営単独住宅としまして、将来的には若者対策の移住定住促進住宅として活用することは可能と考えております。現在は被災者が優先というために、すぐには若者に対する移住定住の対策に使うことはちょっと難しいところがあります。

空き屋バンクへの登録を推進しまして、受入体制の整備を行いながら、中山間地域の移住定住対策を充実させたいと考えております。

○９番（福永　啓君）　ちょうど時間もまいりましたので、これを最後のまとめの質問とさせていただきます。

今申し上げましたように、中山間地の農地、中山間地、ここに対しましては、私は移住定住を促進する、受け入れる要素はたくさんあると思います。それによって、農地をともに保全していくことも、新規就農対策も併用できるかなと考えております。これに対しまして、今回移住コーディネーター、これを御船町としては雇用されました。ともに地域おこし協力隊もこれは移住者ですから、一緒に活用していただきたい。これはまた決算のところでも質問したいと思います。

最後に、やはり町長にぜひお話をお聞かせいただきたい。これまでの議論を踏まえて、わかりやすく、町民がイメージしやすいような形で、復興した御船町の姿はこんな感じの町を目指したいんだよという御説明をお願いしたいと思います。

○町長（藤木正幸君）　お答えしたいと思います。

復旧・復興今一生懸命頑張っているわけであります。しかしながら、今現状として、復旧期に４年、復興期に４年、８年かけて元の姿、元の姿以上に創造的な復興を成し遂げるということで今復興計画等を立てて進んでおります。

その中において、私の最終的な考えは、今コストコにしろ、道路整備にしろ、地域の開発にしろ、たくさんのことが今も行われているし、これからも行われるというふうに感じます。しかしながら、そういった物質的なものをこの地に持ってきて、この地に栄えさせるというよりも、最終的な目標は、私は20年後の御船町が今の人口以上の人々がここに集うことが一番大事だろうと思います。その過程の中において、今いろんなものを復興計画の中で私たちは行っていくだろうと。人口減少社会そして高齢化社会、ここに耐え得るこの町を形成していく上で、今大事な軌道の位置にあるのだろうと思っています。

その中において、今、福永議員が質問された町中心部の問題、そして高速道路を中心としたこの地域の問題、そして中山間地域の問題、それぞれにやはり私たちは考え直していかなければいけないところもあるし、維持していかなければいけないところもあると感じております。やはり道路網の、高速道路を中心とした、これは九州の中心地であるし、熊本県の中心地であるし、物は御船を通じて出入りをしていく。今までも御船は、海の物は御船へ、山の物は御船へ、ここで御船というのは商人文化の町が形成されて、今の御船の姿に戻っていると。現在は、これからはと考えたら、やはり高速道路を中心にした道路網、この人の流れの出入りによって、この地に人が集う場所にするために今何をしなければいけないか。九州各地から御船に来ていただくためには何をしなければいけないか。

また、そのために来られた方をどうするか。町中の対策、中心地の対策、雇用の問題、そして移住定住の問題、こういったところも中心地という役割の中でどうしなければいけないか。一番心配されている中山間地の問題、ほぼ同じことだと思います。やはり、人の集う場所、勢いのある町に人は集ってくると思います。やはり中山間地域、昨日も敬老会でお話をさせていただきました中山間地域、何が下と違うのか、平坦と違うのか。それが一番大きいのはコミュニティの違いだと。コミュニティの違い、だからこそ、このコミュニティにかかわる方々、関係する方を多く中山間地域に来ていただくためには。その施策として、私たちはこれから中山間地域のことを、役場でできることをしていかなければならない。

しかしながら、役場でできることというのはやはり制限があります。民間と一緒になって話を進め、民間ができないことを私たちがお手伝いする。民間にしてほしいこと、そういったことを私たちが作り上げて提供すると、こういった流れを今後作っていく。20年後、この地に人が住み続けることができる最終目的に向かっていきたいと思います。

○９番（福永　啓君）　御船町に住んでよかったなあと、「ああ、御船町に住んでいるんですか、うらやましいですね」そういうふうに言われるように、私たちもそのような町にしていきたいと、心より思っております。文化、芸術も、教育、これも非常に重要なファクトですから、それもお忘れなきようお願いをして、私の一般質問を終わらせていただきます。お疲れさまでした。